

EGFブームの火付け役が2007年を予想

いまや美容業界を飛び越えTVショッピングでも有名になった「上皮細胞増殖因子=EGF」を配合した化粧品を日本で初めて上市した、バイオリンク販売の辻社長に直撃インタビュー。今年のトレンド予想を聞いてみました。

Q・・・2006年を振り返ってみていかがでしたか？

辻・・・2005年11月からEGF化粧品の販売を始めましたが、2006年は毎日が戦争のようでした（笑）。といいますのも、お客様から「こんなに肌が若返った！」とかディーラー様から「効果がある化粧品にやっと出会えた！」など嬉しいお声をいただく一方、「EGF原料を化粧品に使っていいのか？」「EGFは化粧品原料として認められていないのでは？」などというお声もあり、その都度ご説明するのに一苦労でした。

Q・・・しかしEGF配合をうたったコピー商品や、EGF原料を提供する、といった会社が出てきたりもしましたが？

辻・・・便乗商法と言いますか、この業界にはよくあることですが（苦笑）。ですから、私達が苦労して作ったEGFブランドイメージを、より高めるために「NPO法人日本EGF協会」を設立し、一定基準を満たしたEGF配合化粧品には品質保証マークを添付してきました。全国で講演会の依頼も増え、そして1年で16社26アイテムの品質保証商品ができるに至りました。

Q・・・では昨年はEGF化粧品の当たり年だったわけですね？

辻・・・いえ、美容に敏感な方はともかく、一般の方々にはまだ認知度は低いと思います。2006年1年間で我々のOEM商品が計10万個の販売でしたから、業界全体では15万個程度ではないでしょうか。2007年は大手化粧品メーカー参入や海外輸出が増えると見られ、年間で120万個、市場規模で80億円程度かと思っています。

Q・・・本格的にEGFがCoQ10やプラチナノコロイドを抜く人気商品になりそうですね。

辻・・・人気、という面ではそうかもしれません、そもそもCoQ10やプラチナノコロイドには効果的な生理活性や濃度といった概念がありませんから、

比較する対象ではないと思います。むしろプラセンタエキスとの比較のほうがいいかもしれません。

Q・・・プラセンタエキスにもEGFが含まれているからですか？

辻・・・はい。プラセンタ（胎盤）にはEGF以外にもFGF（線維芽細胞増殖因子）やIGF（インシュリン様増殖因子）など他のサイトカインも含まれています。しかし今化粧品として使用できるプラセンタはブタ由来のもので、増殖因子はヒトのものと他の動物のものではかたちが違いますから、その意味ではヒトの皮膚に効果があるとはいえないのです。

Q・・・では御社で扱っているEGFはヒト由来なのですか？

辻・・・いいえ、E.Coli（非病原性大腸桿菌）由来の遺伝子組み換えタンパクです。これは53個のアミノ酸で構成されるヒトEGFと全く同じ構造をしています。日本で化粧品に配合が出来て、名称がヒトオリゴペプチド-1と表示できるEGFはE.Coli由来のみです。この原料の生理活性や配合濃度が一定の基準を超えており、また残留遺伝子試験やAmes試験のデータがあることを条件に日本EGF協会の認定商品としています。

Q・・・今年の展望、御社の営業戦略をお聞かせください。

辻・・・今年は引き続きEGF配合化粧品の販路拡大、認知度上昇を目指して活動しますが、さらにFGF-1（線維芽細胞増殖因子）配合化粧品、およびFGF-7（発毛因子）配合のヘアソープ、トリートメント、スカルプエッセンスの上市をいたします。FGF-1はコラーゲン繊維やエラスチン繊維などの纖維芽細胞を再生しますので、深いシワやニキビ跡、妊娠線にも効果的です。またFGF-7は発毛因子そのものズバリですから、髪のお手入れをしながら頭皮や抜け毛のケアができるという画期的な商品になります。問題は価格です。

FGF-1もFGF-7も実験用試薬では1g当たり100～150億円ほどしますので、お求めやすい価格設定でありながら、効果的な濃度にするのが、非常に難しいのです。1個200万円のエッセンスなど誰も買いませんからね（笑）

Q・・・今年は御社の凄い商品が世の中をあっと驚かせそうですね。

